



金山中学校
高橋 晋也 校長

小中高の生徒たちが集まったプロジェクトKの開講式で「小学生はチャレンジ」、「中学生は働く意義を」「高校生は自分の将来を見据えて」体験してほしいと伝えました。年齢に合わせて、しっかりとした目的を持って体験して欲しかったからです。この体験を通して、どんな職業に就きたいかはもちろんのこと、「どんな人間になりたいか、どんな生き方をしたいか」を考えるきっかけになってほしいのです。

コロナ禍、そして忙しいにもかかわらず、たくさんの企業の方に協力していただき、本当に感謝しています。子どもたちは夢を持った、生き生きとした人に影響を受けます。今回、生き方を学んだ子どもたちが多くいたと感じています。

体験後、子どもたちの顔つきもキラッと変わったように見えました。



▲現場看板も本物そのもの



1-札勘訓練の様子 2-介護って何だろう
3-器用にカンナで削る
4-最先端技術のVRを初体験



▲生徒たちに大人気の壁塗り体験

事業所の声

子どもたちのため、美容組合として初めてプロジェクトKに参加しました。生徒たちには、カットの基本やアイロンを使ったセットの方法などを体験してもらいました。見ていると、手先が器用で、筋があるなど感じる子も結構いましたね。いろいろな職業を体験してみて、こんな職業もあるんだなど興味を持ってもらい、将来の職業を選択するきっかけになれば嬉しいです。



金山美容組合
奥山 伸 さん

将来の夢を考えるきっかけに ～未来の担い手プロジェクト～

職場体験とは、生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事について実際に体験したり、働く人々と接したりする学習活動のことです。
金山町小中高一貫教育の事業として、平成30年に始まった「プロジェクトK」。金山中学校の屋内外に15のブースが設置され、生徒たちは、小中高の5～6人の合同班編成に分かれ様々な職業を体験しました。事業所の方たちは、生徒たちに「どのような場所で活躍しているのか」「どんな作業を行っているか」などを説明し、実際に作業を体験してもらいました。

この金山の未来の担い手育成プロジェクトの実行委員長である、もがみ北部商工会金山支部長の星川広喜実行委員長は「この取り組みは町外からも評価が高く嬉しく思う。子どもたちが、自分の職業を選ぶ時に、プロジェクトKのことを少しでも思い出してくれるとありがたい。繊細な技術、誇りを持ち働いている方に触れ、何か感じ取ってくれば」と生徒たちに温かい眼差しを向けます。

5年目を迎え、事業所も生徒たちにもっと面白い体験してもらおうと創意工夫。最上広域市町村圏事務組合消防本部では、今回初めて消防車と救急車を配備し、放水体験を準備してくれました。他にもドローンやVR(バーチャルリアリティ)などの建設業や農業で活用している最新技術を体験することができました。



▲防火衣の着用に戸惑う生徒

体験後の感想発表では、「町で活躍する仕事を実際に体験できてよかった」と充実した時間を過ごすことができた様子。参加した事業所の方は「自分になりたい職業になるためには、全て試験がある。好きな仕事に就くためには、学びが大切。勉強を大切にしてほしい」とエールを送っていました。

生徒の声

参加した生徒の皆さんの
感想を一部紹介します

- ・興味がなかった業種だったけど、体験してみると見え方が変わった。
- ・「地域の活性化に繋がりたい」「地元ならではの魅力を発信したい」と働いている方の熱意を感じた。
- ・仕事は大変だというイメージだけ持っていたけれど、それだけではなく、働いている人が「楽しい」と感じる職場があつてとてもいいなと感じた。
- ・将来どんな職業についても人のためになるような仕事をするという考え方を大切にしたい。
- ・人手不足を解消するため、最新の技術を使っていることを知れた。
- ・自分の好きなことを仕事にするためには、目標をしっかりと持ち、その目標に向かって前向きに努力することが大切だと教えてもらった。
- ・金山にもこんなに素敵な仕事をしている方がたくさんいるということを知れた。
- ・学び続けることが大事だと気付いた。自分をどう変えていくのか、どう行動すればいいのかを考えるきっかけになった。